グレイト・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会　第104号　2025年11月14日発行

発　行：グレイト・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会　郵便振替：00910-3-210061 グレイト・コミッション
事務局：〒606-8274　京都市左京区北白川大堂町4-3　京都キリスト福音教会内　FAX 075-791-3488

香港・マカオ訪問

吉田　隆

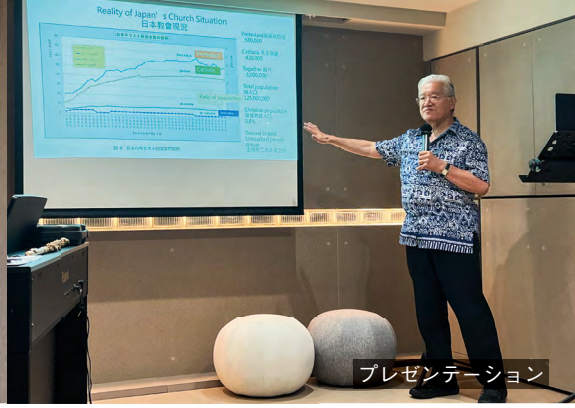
私たちの家族は1994年から2000年までの間、香港に滞在して中国大陸の宣教に携わっておりました。同時に、香港では日本語教会で働きをさせていただいておりました。帰国してからも香港や中国に訪問することがありましたが、2020年に香港に行く計画がコロナのために出来なくなり、今回15年ぶりの訪問となりました。

その香港は、様々な意味で変化をしていました。社会的には悲観的な面が見られる一方で、霊的には積極的な面を見つけることができました。

香港・マカオ訪問　吉田　隆……1-3
小さなことに忠実に　吉田宣教……4
宣教と霊的な戦い⑤　吉田恵利子……5
感謝とご報告・祈りの課題……6

ロバート・モリソンの教会（マカオ）

日本のための祈祷会



プレゼンテーション

日本のための祈り会

毎月１回火曜日に、アジア・アウトリーチ香港では「日本のための祈祷会」が開催されています。2011年東日本大震災が起こり、日本のための祈り会が始まりました。それから休まずに毎月一回、14年以上にわたって日本のためにこの祈祷会は続けられてきました。

コロナ禍で対面の集会が出来ない間も、Zoomで続けてくださっていました。

9月16日火曜日も、50名の方々が日本のためだけに祈る祈祷会に参加してくださいました。祈祷会が始まると最初にみんなで会衆賛美をしましたが、日本語で賛美が歌われました。パワーポイントに日本語がアルファベットで映し出されて、それを皆が歌いました。

その後、私がプレゼンテーションをさせていただきました。日本の霊的現状は厳しいけれども、こうした執り成しの祈りに支えられて、必ずリバイバルが来ると信じることを様々な角度からお伝えし、今日本に主の愛が注がれているので、日本のための祈りを続けてくださるように、メッセージしました。

アジア・アウトリーチ香港は、宣教チームを毎年２回日本に送っています。今回集まった50人の中には、この宣教旅行の出席者も含まれているそうです。集会後に日本語で話しかけてくださる方々もいらっしゃいました。

香港の教界の日本への重荷

他にもSEND、OMF、OMといった宣教団体や、いくつかの地域教会でも、不定期ではあるようですが、日本のために祈り会をしてくださっているそうです。

今年は、香港から日本へ送られる長期宣教師数が51名となり（これは日本のJEMAに相当する宣教協力会の傘下にある宣教師の数でユース・ウィズ・ア・ミッションの宣教師などの数は含まれていません）、今まで一位だったタイ国を上回って一番多くの宣教師が送られている国となったそうです。

一般社会とクリスチャン界

MTRと呼ばれる香港の地下鉄の駅では、以前はなかったおにぎり専門店が登場してきました。日本のコンビニを上回る種類のおにぎりを売っています。値段は円に換算すると一つ360円から600円ぐらいです。（香港ドルは米ドルと一緒に動くシステムが取られているので、私たち日本人が高く感じるのは、円安になっている影響もあるでしょう。）また、至る所に日式○○と書かれた和食の店があります。

2019年に起こった香港内の動乱以降、北米、英国、オーストラリアなどへ移住する香港人が増えたことはよく知られていますが、４万人ほどの移住者が出たうちの80％がクリスチャンであったと聞いて、驚きました。台湾への移住者もあるそうですが、日本への移住者も多いそうです。

香港の日本人社会

一方、かつて私たちが香港に滞在していた時には、日本企業などが多く存在し、その家族なども多く住んでいましたが、そうした方々の人口は半分以下に減少しました。私たちが仕えていた日本人教会の方々も、様々な理由でほとんど日本に帰国なさっています。大きな変化の中にあることを感じさせられました。当時、私たちの長男が通っていた日本人中学校は、来年３月に廃校となるそうです。

AO香港のオフィスに近い下町の風景が残る場所

マカオ訪問

マカオの社会的変化

今回の香港滞在中に、30年ぶりにマカオを訪問する機会が与えられました。マカオは香港から船で1時間ほどの距離にあります。香港がかつて英国領であり1997年に中国に返還されたのに対し、マカオは以前ポルトガル領であり1999年に中国に返還されたという違いがあります。

私たちが2000年以前に香港に滞在していた時に、大変お世話になったS宣教師が、現在マカオに住んで活動していらっしゃるということで、この訪問が実現しました。

マカオも中国に返還されて四半世紀が経過したわけで、その社会と地域の人々の生活に香港と同じような現象が起こっているのかということに関心がありました。しかしマカオの人々にとって、中国への返還は益となっているようでした。

その大きな理由は、ポルトガルという国がラテン系の国であるため、過去にはさまざまな約束が実行されるのに時間を要してきたのに対し、中国が主導権を取るようになって、すべてが早く進むようになった、ということのようです。これは私たちが、やはりラテン系の国であるフランスに住んだことでよりよく実感できることでした。すなわち、返還以降マカオの開発は急ピッチで進んでいます。かつては、香港とマカオは主に船でだけ行き来していましたが、現在は全長55kmに及ぶ香港と珠海（中国本土）とマカオを結ぶ港珠澳大橋の完成によって、非常に盛んな交易が行われています。

霊的遺産

クリスチャンにとってマカオという場所は、特に宣教の発展という点から注目されるべき場所です。

今回は、プロテスタント中国宣教の最初の人物であるロバート・モリソンが、今から約200年前に福音を伝えるために建てた教会を訪問しました。（P1写真）その会堂の裏には、この地で命を落とした彼の家族やハドソン・テーラーの家族の墓も置かれていました。

ロバート・モリソンは、最初の中国語の聖書を翻訳し、最初の中国語・英語辞典を出版、それ以降の中国宣教に大きな功績を残した人物です。けれども、彼がこの地を離れる時には、十分に魂が救われなかったことを悔やみ「Rock! Rock!（岩）」と叫んだと言われています。しかし、その種は成長し、今や中国は世界一のクリスチャン人口の国となりました。

モリソンチャペル

ロバート・モリソン

もう一つ、マカオで最も有名な観光地として知られる聖パウロ天主堂跡があります。ここは火事で消失したために、正面部分だけが残されていることが特徴です。17世紀はじめにイエズス会によって建設されたのですが、マカオには当時バテレン追放令によって日本を離れた日本人キリシタンが多く住んでおり、彼らが建設に携わったのでした。その地下に遺骨がある日本人の名前が60人以上も記されており、驚きました。

聖パウロ天主堂跡

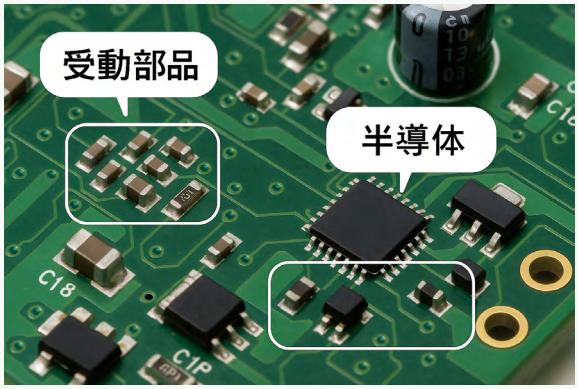
小さなことに忠実に

吉田宣教

10月の中国出張・成都空港

上海駅

私は今、電機メーカーの資材部というところで働いています。これは、完成品を作るのに必要な部品や材料を出来るだけ安く、安定して購入するために調整・交渉を行う部門です。中でも私の課は、完成品の中の基板という緑色の板の上にたくさん載っている、半導体や電子部品を購入する課です。イメージでは黒色や銀色の粒々が緑色の板に載っているだけなのですが、実はそれぞれに異なる機能を発揮しています。丁度人間が一つの動きをするのにも、体の中に色々な器官が働いて制御しているのと同様です。



基板の上の受動部品と半導体

私はその中でも、セラコンやチップ抵抗という、受動部品と呼ばれる領域の部品を担当することになりました。前任者からは「この品種は仕事が多い割に、原低がほとんど無くて目立たない。早めに他の部品の担当に変わるよう希望した方がいいよ。」と言われました。原低というのは、原価低減のことで、取引先と交渉して購入価格を引き下げることです。例えば、1個の部品の価格を1円下げただけでも、年間100万個使用する部品であれば、100万円分会社の利益が増えるのです。半導体の方は数千万の原低があることも多い様ですが、「受動部品は100万円でも出たら良い方だよ。」と言われていました。

確かに取引している受動部品メーカーは、日系が多く価格の下がる要因が無さそうでした。また、原価低減に取り組む間も無いくらい、安定調達に関わる業務やトラブルが頻発していました。私は、そのような現実的側面を理解しつつも、目の前の仕事に精一杯取り組むことが大事だ、と思い日々取り組んでいました。

すると、今年の価格交渉結果で蓋を開けてみると、受動部品の領域でなんと年間1億円の原価低減が取れていました。これはこの分野の品種では、普通無いことです。表面的には、新規案件を引き合いにした交渉の結果ではあります。しかし、背景を色々聞いていると、別の側面も明らかになりました。実は日系メーカーが圧倒的シェアだったこの領域ですが、海外メーカーのレベルが急上昇しています。そこで、転注されることを危惧した日系取引先が、自主的に価格を下げてきた側面があるのです。

このことから、私が思ったことはこうです。すなわち、神様は真実な方であり、小さな私たちの動きもご覧になり、ミクロとマクロの世界双方から現実を動かされるお方である、ということです。天の御国で「よくやった」と言ってもらえるように、これからも日々歩んでいきたいです。

主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

（マタイの福音書 25：21）

宣教と霊的な戦い ④ クリスマスの思い出

吉田恵利子

香港での働きをしている間、たくさんの方々がお祈りによってお支えくださいました。ある方々は中国宣教のために、また、様々な方々が我が家にお越しくださいました。香港の狭いアパートにも様々な方々がお泊まりくださいました。

末っ子を出産した直後の疲れ切った体を労わるタイミングで、宣教メディアセンターの大同眞理子姉がお手伝いに来てくださったことも、私たち家族と宣教の働きの大きな助けとなりました。というのも、その後に次々と起こる出来事（前回 103 号掲載）には、大変大きなチャレンジを受けることになりましたので、その前段階で大同眞理子姉が助けてくださったことは、本当に感謝なことでした。

香港に住み始めて２年目のことです。４番目の子どもをみごもっている時に、日本でお世話になっていた宣教師の先生から、アフリカ人の若い女性エブリンを世話して欲しいと依頼がありました。日本在住の親戚を訪問しているアフリカ人女性が、ビザの関係で母国に帰るための手続きを香港ですることになり、ビザ問題が解決するまで滞在できる場所を捜して欲しいとのことでした。私は身重で大きなお腹をかかえていた時でした。

いろいろと尋ねて回ってみましたが、受け入れ先が見つかりません。ある信徒の方が、田舎の空き家を提供してくださるとのことで、最後の頼みの綱のようにそのアパートを見に行きました。そこはすばらしい住居でしたが、住むのに必要なものがありませんでした。更にそこは都心から随分と離れたところで、香港に不慣れな若い女性が一人で住むのは難しい場所でした。

エブリンが実際に香港に来られたのは、出産した後のむずかしい時期に重なりました。困り果ててお祈りしていると、「イエス様がお生まれになった時に、宿屋には場所がなかった」ということを思い出しました。主人も同じことを思わされ、私たちの狭い家にお迎えしなければならないという結論に達しました。私たちのアパートは、夫婦のための寝室と、ベッド一つが収まるだけの狭い部屋しかないアパートでした。（後で分かったのですが、その極狭の部屋は、香港の共働きをしている夫婦が雇うアマさんと呼ばれる外国人のお手伝いさんのための寝室だったのです。）当時小学生の長男と長女がその狭いベッドに寝て、次男と生まれたばかりの三男、そして私たち夫婦が寝室を使っていました。

ですから、エブリンが我が家に長期間住むことになった時、家族６人が一つの寝室に寝ることになったのです。

成就を出産した翌月に、エブリンは我が家に来られ、クリスマスを共にお祝いし、１月の彼女の誕生日もお祝いしました。

クリスマスを迎える季節になると「宿屋には場所がなかった」というみことばから、エブリンのことを思い出します。後になって彼女が語ってくれたことです。「今は結婚して母親になりました。香港でお世話になったことはとても良い思い出です。」

※前号で、吉田恵利子クリスマス個展 VI の案内をさせていただきましたが、昨年の個展の後に一過性脳梗塞を患いましたので、今年のクリスマス個展をフィンランド・クリスマス・フェアーの一部としてさせていただくことに致しましたことを報告させていただきます。

感謝とご報告

- 吉田隆・恵利子宣教師は、8月7日から8月21日まで、沖縄に遣わされ働きをいたしました。あらかじめ予定されていなかった地域の夏祭りへの参加を、主催者からリクエストされました。夏祭りは、空手、合気道、健康体操、ダンスなど様々な演目が並びました。飛び入りの吉田隆宣教師は、「さとうきび畑」などを演奏して、赤とんぼを演奏しました。作詞者の三木露風はクリスチャンで、「とまっているよさおの先」というのは、十字架を表していると証ししました。町内会の方が、聴いていた方の中に涙を流している方々がいたとのことで、主に栄光をお返しします。
- 吉田夫妻の三男成就兄は、過去1年間インターンを務めた八尾福音教会（大阪府八尾市）桜ヶ丘チャペルにて、9月7日から伝道師として働くことになりました。
- 吉田隆・恵利子宣教師は、9月9日から22日まで、香港とマカオに遣わされて働きをしました。（本文P1-3）
- 10月は八尾福音教会と綾部キリスト福音教会でコンサートの伝道集会をいたしました。
- 吉田隆宣教師は、11月2日から7日までネパールに遣わされPAM（ペンテコステ・アジア宣教会議）に理事として参加しました。（次号で報告予定）

祈りの課題 （以下の祈祷課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。）

- 吉田隆・恵利子宣教師は、2025年12月3日から6日まで、大津市坂本の楽心庵にてフィンランド・クリスマス・フェアーの開催のために協力いたします。開催を予定していた吉田恵利子クリスマス・ミニ個展VIは、このフェアーの一部としてギャラリー楽心庵の一室でのみ行われます。
- バングラデシュ教会堂建設プロジェクトのためにお祈りくださり感謝致します。教会堂のなかった村に会堂を建設する計画は、二つ目の会堂が完成したとの報告が入りました。集会は開始されますが、2026年3月に吉田隆宣教師が現地に赴き献堂式が行われる予定です。三つ目の会堂建設に必要な献金がまだ満ちていません。もし、吉田隆宣教師が3月に訪問する時までに献金が与えられれば、三つ目の会堂建設のための鍬入れ式を同時に行うことができます。このための献金が与えられるようにお祈りください。（このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「バングラデシュのため」とお書き添えください。）
- 2025年10月末日の時点で、グレイト・コミッションの会計残高が約50万円の赤字となっています。お支えいただけますと幸いです。
- 吉田隆＆恵利子宣教師の宣教30周年記念と結婚40周年を兼ねてイスラエル聖地旅行の計画が立てられています。しかし、イスラエルの情勢不安、更に円安のために聖地への旅行が難しく、現在のところ、延期されております。戦争の早期完全終結、政情の安定と旅費の予算が満たされますように。（このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「聖地旅行のため」とお書き添えください。）